# 読者の広場

gakugei@nnn.co.jp

# ひろば

「やまびこ」は意見やほのぼの話題などで400字以内、「散歩道」は随想などで700字以内、「私の視点」は時事評論などで700字以内。「私の作品」はイラストや写真などで、はがきや写真にひと言添えて送ってください。採否の問い合わせ、応募された原稿や写真の返却、匿名、他紙との二重投稿はお受けできません。文章を添削する場合があります。採用分には図書カードを贈ります。原稿には必ず郵便番号、住所、氏名、年齢、職業（学年）、電話番号を明記してください。

郵送 〒680-8688 新日本海新聞社「読者の広場」係へ　メール gakugei@nnn.co.jp

## やまびこ

### 「女人禁制」の協会対応疑問

青木　鉄雄（米子市尾高、88歳）

土俵上でくも膜下出血で倒れた市長の救護に当たった女性（看護師資格者）に対し、「女」が土俵に上るのはご法度と、土俵から出ろとやかましく要求した相撲協会の対応に疑問の声が出ている。

40年ほど昔、パックツアーに参加してタイ国へ行ったことがあるが、現地ガイドの説明で、王や王室家族には一般人が触れたりすると処罰するとの法令があったという。ある時、幼少の王子が川へ転落する事故があったが、この法のため、川で溺れる王子をみすみす見殺しにしたのだという。

私はこの話を聞いた時、「何というばかげた法があるものだなあ」と驚いた。今でもこんな法令が生きているか、改められたかは知る由もないが、今回の事件の対処を見て、40年前の外国旅行での話を思い出した。

### 日本人選手に本来の姿見る

三谷　清治（大山町御来屋、67歳）

それは、野茂英雄から始まった。1995年、野茂がアメリカに渡ったころ、メジャーリーグは選手の年俸が高騰しストライキ中。しかし、ストライキが解け彼が黙々と投げる姿に多くの人が目を見張った。人気が低迷した時期だけに、野茂はメジャーを救ったと。

2000年、今度はイチローがメジャーに。本塁打が魅力の中、走攻守、三拍子そろった姿に、こんな野球もあるのだと再認識させた。そして今年、大谷翔平が投と打の二刀流でメジャーをにぎわせている。

野茂にしても、黒田博樹にしても、大谷にしても多額のお金を求めてではない。野茂は単に腕を試したいがため、黒田は謙虚さゆえに契約期間を1年縮めた。1年間働けば20億円近くを手中にするというのに。大谷とて例外ではない。数年待てば契約金は高騰したであろうに。今年、ちまたでは日本人らしからぬ不祥事が続いた。だが、海の向こうで日本人が持つ本来の姿を私は重ね見る。

米田　範子（琴浦町八橋）

「初物は東を向いて食べるだよ」と祖母が話してくれました。「どうして？」の問いに、「分からん…」。何はともあれ、美味でした。

## 散歩道

### 魅了された歌川広重の世界

「歌川広重の世界・東海道五十三次と江戸の四季」を見た。解説図」の、道幅いっぱいに物売りが描かれた姿に、町人の間で絵の評判が高まっている様子がうかがえた。

また、「吉田（豊橋）・豊川ノ橋」では、城の外壁を塗る左官のそばで、足場の木に登って遠くを眺め、「きれいな富士山が見えるよ」と喜んでいるかのようなんびん棒を担いだ商人のたくましい姿が印象的だったし、「変わり

文を読み、絵で確認しながら進む中で、新しい発見が二つあった。

まず、大名行列は点景描写か無表情が多いのに、庶民の生活は生き生きと描写されていたことだ。「日本橋・朝之景」の左手前のて

絵もあり、作者の観察眼と表現力に驚いた。

次に、多彩な自然描写と、その中に生きる人間の姿が巧みに表現されていたことだ。「原・朝之富士」では、雄大な富士山を眺める2人連れの女旅人、田んぼで憩う2羽の鶴の構図は、日本の原風景のように思われた。

「庄野・白雨」では、急な夕立雨を斜めの細線と薄い墨で描き、竹やぶが激しく揺れる様三層の濃淡で描き、て笠と蓑をかぶっる百姓、雨除けをせて走る駕籠かきには、力動感があっ

絵師が1枚1枚描いていくものとていたが、絵師の をもとに彫り師が を彫り、その後、 師が色を重ねて完せることを知り、 を見に行った。厚 の堅い桜の木を

## 「減災」には自助・共助・公助が必要

八頭町には全国から「隼（はやぶさ）」ライダーが集合する。「聖地隼駅に集まろう」の呼びかけがきっかけで9回目の昨年は1600人がバイクに乗って集まった。そんな町内に、昨年12月、旧隼小学校を活用した地方創生拠点施設「隼Lab.」がオープンした。「あらゆるチャレンジを応援する」を基本理念に、全国の起業家、デザイナー、プログラマー、エンジニア等、多様な人がつながる全国18拠点目の施設だ。地方だからこそできる起業や新しいチャレンジ、企業の協業が創出される場を目指している。今月、この施設に「社団法人防災行政無線研究所」を開設した。

日本は自然災害多発国だ。「世界リスク報告書2016年版」によると、災害に弱い国の順序で17位だ。国連大学によると、2015年世界で発生した346件の自然災害で約1億人が被災、2万2000人以上が死亡、665億ドル（約7兆円）の経済的損失があったという。熊本地震の被害額（約2・4～4・6兆円）は世界損失額の約半分を占める。自然災害は避けられないが、少しでも人的被害、物的被害を軽減する「減災」はできる。

「減災」には、災害の規模・現場の状況把握など、いち早く正確な災害情報の伝達が重要だ。このため、国および地方公共団体には防災用無線システムが構築され、最も身近なのが市町村防災行政無線だ。災害情報は屋外拡声等で知らせる「同報通信系」と、災害情報の収集・連絡等のまでも移動、同報系を一つにした利用を推奨してきたが、放送音声の明瞭度などが問題視され、普及が進まなかった。

こうした中、国内有数の無線メーカーが「新デジタル移動系システム」を開発し公表した。特徴は、移動系通信を軸に①屋外拡声②戸別受信機③コミュニティー放送―を一つのシステムで運用、しかも安価だ。これに対し今年1月、総務省は整備が遅れている戸別受信機の重要性に鑑み、このシステムを緊急防災・減災事業債の対象装置として充当率100％、交付税措置70％の地方財政措置を発表したのだ。

移動系デジタルが整備されたのは鳥取県内で倉吉市だけだ。さらに、市町村合併で身近な戸別受信機が撤去された自治体もある。「豪雨災害時に室内では屋外放送は聞き取れない。どうやって避難指示を徹底するのか？」など多くの課題が浮かび上がっている。必ずやってくる災害、想定外の大災害。自助・共助・公助の取り組みが急がれる全国自治体に、隼Lab.を拠点として防災行政無線に関わる情報を発信していきたい。

（湯梨浜町）

エナテクス常務取締役境港支社長　磯江　公博

## 今月のテーマ『考える』

### 留学生を指導　マナーに困惑

尾崎　孝介（鳥取市気高町浜村、78歳）

私は一時期、鳥取市国際交流プラザで中国人留学生に10年余で延べ25人ぐらいに日本語を教えた。彼らの日本での生活に少しでも役立つように支えるのが目的だった。

内容は日常雑学、日本生活用語、敬語、成語などを1人90分、週1回のペースで指導。幸い私は中国での生活体験が3年半あったので、彼らとの距離感は問題なかった。

ボランティアなので互相学習をお互いのメ めた。国費 換留学生、 など広大な まって来て い興味をも を育んだ土 いと思った。

### かわいい電話で

野口　一（屋、69歳）

8年前に れてから、 た娘が電話 るようにな これといっ く、私の安 ってのこと いていの場 衣食住につ 求めること 娘夫婦の 行楽や買い くれる。春 ドライブ、 の花火、秋 タジアム観 コでのショ 冬の皆生温 が心に残っ かげで独居 をそれほど いる。

この冬で た孫の話し 増えてきた 話を切って